


公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書
2021年度報告書

代表者氏名	李 艶 	所属	聖泉大学 人間学部
研究集会等名称	文化と心理学		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください) 会員 8名 (うち認定心理士 8名) 非会員 7名 (うち認定心理士 5名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 2021年度は引き続き二つの分野から切口として文化と心理学の関係を継続の研究を行った。。一つは社会心理学分野、特に社会的動機づけ、国民固有感情、人間関係、異文化適応の視点から、文化と心理学の関係とその次元を探る。もう一つは新しい試みとして生命科学、AIの最新技術革新の視点から、なぜ人間が一つの心に多様な精神性を持つのか、その深層を探る。コロナ一過による人々の考え方・意識の変容、さらに、コロナ感染拡大とともに広がる偏見、差別の問題、社会的な距離を保つことに伴う人々の心の疎遠感など、未曾有のコロナ感染拡大による人間の心の変容について取り上げた。</p> <p>2021年度助成研究期間には、研究会3回・講演会1回を開催した。</p> <p>内容は以下に示した通りだ。</p> <p>3回研究会の内容は、日留学生の異文化適応と在日労働者の異文化適応についてで、研究代表者李の研究成果を紹介され、異文化適応の心理過程について検討を行った。</p> <p>また、コロナ感染により、社会の変化・変容について、外国を交えてオンライン方式で討論を行った。</p> <p>講演会は山元氏による「外国人労働者を受け入れ・サポートするについて」の話をして頂いた。内容は、「異文化適応は外国人のことだけではなく、日本人も異文化適応が必要だ。真の交流は互いに相手のことを知るから相手を理解しようとする動機を持つことが非常に重要だ。異文化適応は母国文化を大切にすうえで他文化に好意をもって積極的に接触するから始まる。語学力は異文化適応の質にも影響する。」といった豊富なものだった。学生聴講者から「いい勉強になった」「現場からのリアルな話を聞くことができ、よかった」の好評な声があった。</p>		

2022年 3 月30日

日本心理学会研究会 2021 年度会計報告書

研究会名称 文化と心理学研究会

研究会番号 研 21004

助成金額 ¥15,000

年月日	項目	金額
2021年8月16日	研究会外部講師による講演会講師謝礼(1名)	¥20,000

合計 20,000

注：講師謝礼の (20000-15000) 5000円と研究会活動のほかの費用は李艶が個人負担

研究会代表 李艶

2021 年度研究会集会参加者リスト

堀尾 侑右
若杉 華音
吉田 晴翔
吉岡 空
湯川 勇飛
山口 亜祐
矢ノ川 大将
毛利 真也
南山 陸
南 大貴
三上 耀太郎
松村 葉子
松井 侑生
本田 晟樹
堀 隼人
平川 卓哉
久田 優理
橋爪 佑果
中村 知颯
中野 綾香
中島 風花
出路 智也
堤 太希
陳 心坤
張 雨淇
谷 祐希
但馬 匠
竹下 菜音
高田 雄翔
高田 大湖
鈴木 雅子
佐々木 藍
小島 周造
孝頭 寿弥
久保田 もも

國重 あいり
北村 亮太
北川 真子
川嶋 康平
片野 愛希菜
甲斐 友稀
岡田 皇賢
大多和 祐亮
浦辻 慎一郎
上野 広大
猪島 彩加
伊藤 香吹
池田 日菜
小南 翔希
安食 佑一
土永 希弥